

マエカスカシノメイガ

ヤチダモやライラックなどモクセイ科樹木の葉を食べるイモムシ（幼虫）。体は緑色でつやがある。体長最大20mm前後。葉裏に荒く糸を張って、その下にいる。

まれながらヤチダモやライラックで多発することがある。食害は夏に目立つ。



1. 幼虫，体長16mm。1991/8/17。新得町，ヤチダモ。

【学名】 *Palpita nigropunctalis*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， メイガ科 (Pyralidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；樺太，シベリア南東部，朝鮮半島。

【特徴】

幼虫の頭部は黄褐色。前胸背楯（頭部のすぐ後ろ）はたいてい後方と側方で黒く縁取られる。中齢では刺毛基板（体毛の根元付近）が黒点となって現われるが、終齢ではこの黒点を欠くか、あるいは胸部背面両側にのみ現われる。この黒点を欠く個体はトビハマキなどに一見似るが、体のつやが強いことと巢の状態で区別できる。

【生態】

宿主：モクセイ科（ヤチダモ，アオダモ，イボタ，ハシドイ，ライラックなど）。

本州では成虫は4～9月に出現，幼虫は5～9月に出現するという。年2～3回発生し，蛹越冬らしいが詳細は明らかにされていない。北海道では年2世代，成虫は7～8月と9～10月に発生するといわれる。老熟幼虫は葉を巻いて，その中で薄い繭を作って蛹になる。

若い幼虫は葉の表面だけけずり取るように食べるので，食害された葉は薄茶色に枯れて目立つ。幼虫は糸を葉表や葉間に粗く張ってその下に潜む。体が隠れるような巢は作らない。幼虫の集団性は報告されていないが，ヤチダモで10頭ほどの幼虫がかたままって食害しているのを観察した。

【被害と防除】

ときに森林や庭木などで多発する。食害により成長が低下したり木が枯れた記録はないので，森林では防除は普通必要とされな

い.

庭木などで食害が気になるときは幼虫を取り除く.

【文献】

1969. 一色周知監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑 (下) : I-VI, 1-237, pls 1-68. 保育社, 大阪.

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑: I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社, 大阪.

1977. 小林富士雄. 緑化樹木の病害虫 (下) 害虫とその防除 : 1-290. 日本林業技術協会, 東京.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol.1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (北海道での生態, 被害, カラー写真) .

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マエアカスカシノメイガ meiga/maeaka/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992/2/22.

1yochu.JPG

「写真1」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991.